

薬学生による公開シンポジウム

日時：11月22日(日) 14:00～16:30

会場：第12会場(かごしま県民交流センター 3F 大研修室1)

薬学六年制教育の魅力

～ここが違う臨床教育～

臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とする薬学教育が六年制となり、10年目を迎えました。現在、薬学部での学習内容は、以前と比べ大きく変わってまいりました。その臨床薬学教育は、臨床現場の薬剤業務変化に対応すべく、各大学それぞれの特色を見せながら熱心に行われています。

本シンポジウムでは、基調講演の野田幸裕先生に国内を俯瞰した臨床薬学教育の現状をご紹介いただき、また九州内7大学の薬学生の皆さんに、それぞれの大学での臨床薬学学習の一端をご紹介いただきます。それらを踏まえて意見交換をいただき、薬学部における臨床教育の現状を浮き彫りにし、薬学六年制教育の魅力を掘り下げてみることにいたしましょう。

14:00～14:05	挨拶、趣旨説明(5分)
14:05～14:45	基調講演(40分) 名城大学教授 野田幸裕先生
14:45～16:00	7大学学生発表(75分) 熊本大学、九州大学、九州保健福祉大学、崇城大学、第一薬科大学、長崎大学、長崎国際大学
16:00～16:30	総合討論・総括(30分)

基調講演者ご略歴



名城大学教授

野田 幸裕

【略歴】

- 1984年 名城大学薬学部卒業
- 1986年 同大学院薬学研究科修士課程修了
大日本製薬株式会社探索研究所 薬理学研究部
- 1993年 名古屋大学医学部附属病院(名大病院)薬剤部 部員
- 1998年 名大病院薬剤部 主任
ヴァンダービルト大学医学部精神医学講座精神薬理部門 客員教授(1～6月)
- 2000年 名大病院薬剤部 副薬剤部長
- 2001年 博士(医学)学位(論医博2516号)取得
- 2005年 名城大学薬学部 教授、名古屋大学医学部 客員教授
- 2006年 名城大学大学院薬学研究科病態解析学Ⅰ 教授

2005年、名城大学は臨床の現場での薬学教育・研究を充実させることを目的として、名古屋大学と「教育活動に関する協定」を締結しました。それに伴って、薬学教育・研究の場として名大病院内に「名城大学薬学部サテライトセミナー室：病態解析学Ⅰ」が開設されました。精神科領域の教育・臨床・研究のスペシャリスト(精神科専門薬剤師)として、臨床現場で実務にも携わりながら基礎・臨床薬学研究を行っています。

名大病院の常駐教員としての役割

1年次の早期体験学習、5年次の名大病院での実務実習全体の管理や病棟実習の導入講義・演習(多職種連携教育(IPE)やシミュレーション教育など)を担当。その他、アドバンスト特別臨床研修生や配属学生が薬剤部や関連医局と協働して、病棟業務の支援や薬剤師外来(吸入指導)の運用を行っている。

教育・研究・臨床の充実とファーマシスト・サイエンティストの涵養

6年制薬学教育では病院あるいは地域の開業薬局などで働くジェネラリストとしての薬剤師の養成が目的となり、4年制大学院での研究教育では進歩し続ける医療に基礎薬学と臨床薬学の両面から対応できる、独創的で創造的な高い研究力及び高度な専門性と技術・指導力を兼ね備えた薬学のスペシャリストの養成が目的となります。そこで、「教育」・「研究」・「臨床」のそれぞれに知識・技術の偏重がなく、社会性・倫理性・創造性をも兼ね備えた研究者・医療人、すなわち「問題解決能力を有する薬剤師：ファーマシスト・サイエンティスト」の養成を目指し、基礎・臨床の融合を図った教育・研究指導を行っています。また、社会のニーズに応えられるように、応用範囲の広い医療知識と技量を備えた医療人や研究者の養成をめざし、精神科領域以外の方分野での基礎と臨床の枠を越えた横断的に自由に最先端の医学・薬学研究を実施できる体制を構築しています。